

# 1. 構想の概要

## 【構想の名称】

グローバル千葉大学の新生 - Rising Chiba University -

## 【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

本学は、2014年4月に「千葉大学改革構想」を策定し、大学の有する専門領域を「理系、生命科学系、文系」の3つの領域に束ね、「TRIPLE PEAKS CHALLENGE」と銘打ち「技術・医療・起業」の高度なプロフェッショナル人材を排出することを目標としている。このような中において「未来のグローバルな人材」=「人間力のある人材」と考え、人間力の育成に必要な「俯瞰力」「発見力」「実践力」を身につける教育プログラムを開発し、グローバル人材育成を推進する。「グローバル千葉大学の新生 -Rising Chiba University-」の構想名のもと、今日のように、グローバルに活躍する人材、イノベーションを生み出す人材が世界規模で渴望される中で、社会経済のダイナミックな変化に柔軟かつ適切に対応できる文理融合型の教養や専門教育を提供できる新組織を創設し、千葉大学を新生(Rising)する。

## 【構想の概要】

本構想では、新たな大学の景色を、新たな教養学部で国内外の学生にテラーメードの教育を供給することで実現する。そのためにガバナンス改革→学修制度の改革→プログラム改革とプログラムの充実のための進化を実現させるとともに、海外に分校を設置することを目標にグローバル・ネットワーク改革を行う。なかでも、千葉大学の特徴的な取組みとして、留学のための新たな飛び入学「国際教養学プログラム」を設置し、飛び入学で貯金した時間を留学で有効に利用するプログラムを実施する。このプログラムを支えるためのテラーメード教育を推進する専門職員SULA(スーラ Super University Learning Administrator)職の創設などの改革を行い、大学を新生する。またこの他、「発見力」のために大学院レベルの融合プログラムを実施する、「実践力」のために多様な研究ユニットを設け実施する、ことでグローバルなエキスパート人材を育成する。このために、700科目以上の英語による教養科目授業の実施、学部1学年の50%=1,200人(年間)の留学、3,000人(年間)の留学生の受け入れ、学部入学定員の1割にあたる120人分を特別な入試で受け入れる等を目指し、グローバル・キャンパスを目指す。



図1 構想概要

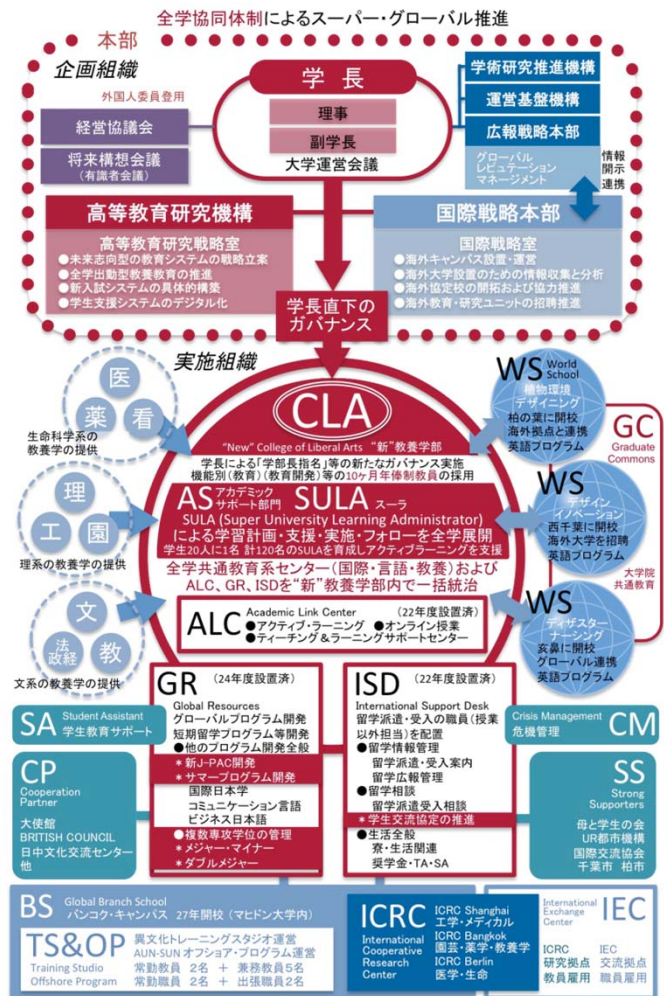


図2 実施体制

【10年間の計画概要】

- **平成26年 RISINGプログラム開始(グローバル人材育成skipwise継続実施)および学事歴の国際化**  
平成24年より実施しているグローバル人材育成プログラムであるskipwiseプログラムを拡大し、派遣・受入両方を実施するプログラムとして、RISINGプログラムをスタートする。「国際日本学」をコアに派遣留学の継続実施と留学生受入の拡大路線を実施するために、協定校の拡大、学事歴の国際化対応を実施する。
- **平成28年「国際教養学部」設置**  
本事業の大きな柱であり、千葉大学のグローバル人材育成のドライビング・フォースとなる新たな学部「国際教養学部」を設置する。これまでの「国際日本学」のプログラムから発展し、国際・日本・科学を混合(ブレンド)して学ぶ学部を設置する。
- **平成30年 新たなグローバル学修システム(メジャー・マイナー・サーティフィケートの実施)**  
国際教養学部で実施する3メジャー(グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学)を全学に開放し、新たなマイナープログラムやサーティフィケートプログラムを実施する。全学で文理混合型の学修を推進し、真のグローバル人材を育成する。
- **平成31年 飛び入学全学標準装備による高大接続の強化で新たなグローバル化推進**  
千葉大学の大きな特徴である飛び入学を全学で実施し、高大接続の新たな入試を新入試のシステム開始に合わせて実施する。この新たな高大接続のもと、特別入試でもグローバルに特化した入試を実施し、多様なグローバル人材を確保する。
- **平成33年 全学でのサマー(スプリング)・プログラム本格開始**  
平成25年より実施している留学生受入の新たなプログラムである「サマー・プログラム」及び「スプリング・プログラム」を全学で実施し、多様なプログラムを整備する。これにより、1,200人の短期受入れ留学生を確保し、日本ファンの留学生を育成する。
- **平成35年 グローバルキャンパス実現のための海外校設置**  
本事業のもう一つの大きな柱である海外校設置を目指す。平成28年度にはキャンパスの設置を行いその後強力な実績を上げ、最終的な目標である海外校の設置を目指す。年間200-300人の学生の送り出しと受入れを行う。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

本事業では、4つの改革を実施し、千葉大学を新生する。

■ガバナンス改革による新生

本構想で設置する国際教養学部では、「グローバル」と「イノベーション」をキーワードに幅広い学修が可能な文理混合のプログラムを実施する。この新学部の中に、**全学教育の運営を支援する実行組織「アカデミック・サポート部門(AS)」**を設置し、**新たなアカデミックな業務を担当する専門職員SULA(スーラ Super University Learning Administrator)**を育成する。

■ガバナンス改革から学修制度の改革へ

千葉大学の大きな資産である飛び入学を利用し「**飛び入学で留学!**」を合い言葉に、飛び入学により時間を貯金し世界に飛び立つことを推奨する新たなプログラムとして、「**国際教養学プログラム**」を実施する。また、学事歴についても6タームを導入することにより、海外の大学の授業カレンダーと間接的に同期させ、単位認定の仕組みまで確立する。

■学修制度の改革からプログラム改革へ

多様な学びを実現するために、文理混合を主眼においたプログラム開発を学部及び大学院で行い、日本人及び留学生の双方を対象として実施する。具体的には、学部における**ダブルメジャー**と大学院における**大学の世界展開力強化事業のプログラム**を基にした**部局横断型のワールド・スクール・プログラム**を全学に展開する。

■グローバル・ネットワーク改革

グローバル・ネットワーク改革では、大きく2つを実施する。海外校の設置とアライアンス交流である。これまでの交流実績を基に、**タイ・マヒドン大学に海外キャンパスを設置し、学部生向けの体験型短期留学(トレーニング・スタジオ)プログラム、専門教育プログラム、オフショアプログラム、ダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム、国際共同研究拠点(園芸学、生命科学)を展開する。**



図3 特徴的な取組み

## 2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

##### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成26年度は、学内よりSULA候補者を選定し、今後の組織構築の準備を始めた。

##### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

**ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)の試験的に開発し2回実施。**その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

##### ○ 学事歴や教務システムの国際化の推進

平成28年度より**6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)**を導入し、**留学派遣および留学受入を推進**する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事歴に対応する。これに伴い、各学科のカリキュラムマップを構築、分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化を推進した。

#### ガバナンス改革関連

##### ○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部(予定)の設置準備

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型の新たな学部を設置**し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置するための準備を行った。



〈国際教養学部の予告ホームページ〉

##### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に**年俸制**を導入しており、50名以上の実績を確保した。また、平成27年度より実施する**クロス・アポイントメント**の整備を行い、**国際的なクロス・アポイントメント**を実施、海外教員の採用を推進する。

##### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置**させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**8名を派遣し職員の国際性・語学力を向上**させた。

#### 教育改革関連

##### ○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置**した。また、**スチューデント・アシスタント制度(SA制度)**を拡大し、**イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入**を推進した。

##### ○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**のほかに、**英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

##### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

### ○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員が英語による教養科目の開設を義務づけた。

### ○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

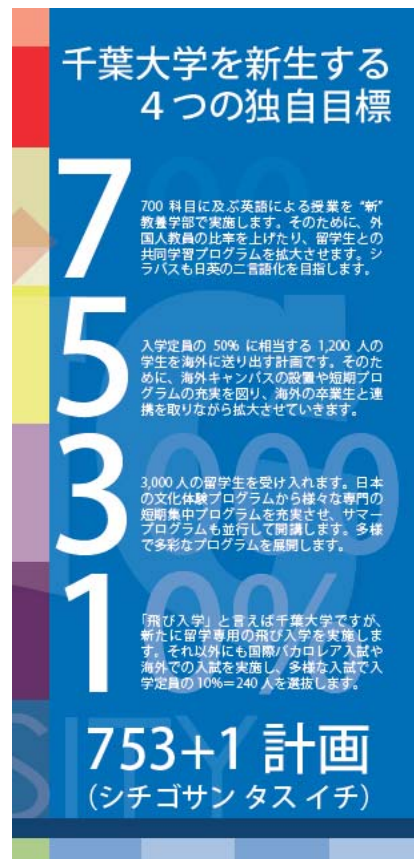
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成26年度には新規に留学導入専用のBOOTプログラムを5つ設置する等、140名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

### ○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成26年度には、ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)の試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。

### ○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。平成28年度設置予定の国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜する予定で計画している。



千葉大学を新生する  
4つの独自目標

7  
700科目に及ぶ英語による授業を「新国際教養学部」で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

5  
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3  
3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様な多彩なプログラムを展開します。

1  
「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

753+1 計画  
(シチゴサン+イチ)

〈753+1計画のパンフレット〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成26年度は、その設置準備を行い、平成28年度設置を目指している。

### ○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成26年度は、平成28年に創設するための様々な整備を開始した。

### ○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

### ○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。

## ■ 自由記述欄

### ○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。

### ○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(新潟・千葉・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



### 3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

#### ■ 共通の成果指標と達成目標

##### 国際化関連

###### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

###### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**テラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成28年度にSULAとして採用される人材は学内から募集し、国際教養学部の事務部に2名よりスタートする。

###### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

**ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)**を試験的に開発し2回実施。平成28年度は13プログラム本格実施。海外の協定校に資料配布。その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



DESIGN FIX & PREPARE FINAL PRESENTATION  
〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

###### ○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より**6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)**を導入し、**留学派遣および留学受入を推進**する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事暦に対応する。ナンバリングおよびカリキュラムマップの構築については平成27年度に終了し、平成28年度より本格導入した。以上のように分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化も推進し、医学部、薬学部、工学部では終了している。

##### ガバナンス改革関連

###### ○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型の新たな学部を設置**し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のホームページ〉

###### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に年俸制を導入しており、100名以上の実績を確保した。また、将来的にはクロス・アポイントメントの整備を行い、**国際的なクロス・アポイントメント**を実施、海外教員の採用を推進する。

###### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置**させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**12名を派遣し職員の国際性・語学力を向上**させた。

##### 教育改革関連

###### ○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置**した。また、**スチューデント・アシスタント制度(SA制度)**を拡大し、**イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入**を推進した。

###### ○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**のほかに、**英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

###### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

### ○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員が英語による教養科目の開設を義務づけた。

### ○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

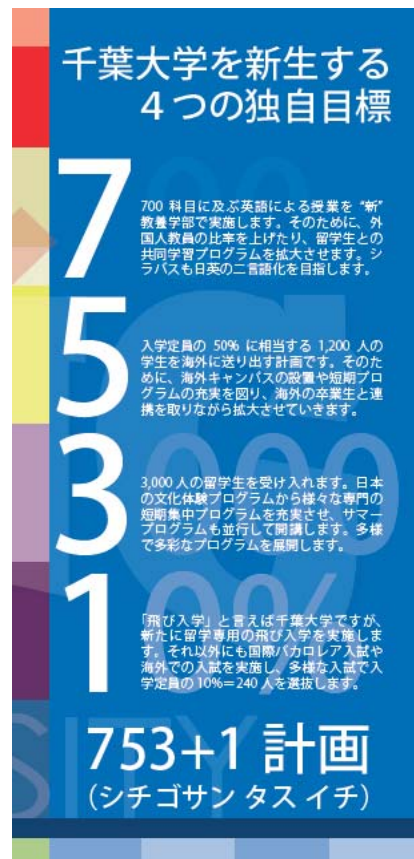
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成27年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで220名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

### ○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成27年度には、ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。

### ○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。平成28年度設置の国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜した。



千葉大学を新生する  
4つの独自目標

7  
700科目に及ぶ英語による授業を「新国際教養学部」で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

5  
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3  
3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様な多彩なプログラムを展開します。

1  
「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

753+1 計画  
(シチゴサン+イチ)

〈753+1計画のパンフレット〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成27年度は、その設置準備を行い平成28年度からの設置が認められた。

### ○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメイド教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成27年度には、SULAとして採用される人材を学内から募集し、平成28年度から国際教養学部の事務部に2名配置した。

### ○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

### ○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。

## ■ 自由記述欄

### ○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UCSD(University California San Diego)に生命科学用のサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。

### ○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



〈マヒドン大学でのプログラムPR〉

## 4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

##### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)**(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成28年度には2名をSULAとして国際教養学部 に任命・配置した。

##### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成28年度は13プログラムを本格実施した。これにより新たに300名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

##### ○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事暦に対応している。ナンバリング及びカリキュラムマップを本格導入し、デジタルポートフォリオシステムを稼働させた。以上のように分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバス英語化も推進し、目標を大きく上回る約1200科目を英語化している。

#### ガバナンス改革関連

##### ○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型の新たな学部を設置し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のホームページ〉

##### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、100名以上の実績を確保した。また、平成27年度より**クロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。**

##### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成28年度に2名配置し、最終的には**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置**させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**13名を派遣し職員の国際性・語学力を向上**させた。

#### 教育改革関連

##### ○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上**設置した。また、スチューデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、**イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入**を推進した。

##### ○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**のほかに、**英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築を検討した。

##### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

### ○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、**全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、5.5%増加した。**

### ○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。**平成28年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで330名程度の学生を派遣した。**このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

### ○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成28年度には、**ショート・プログラムを実施し、300名の留学生を獲得できた。**

### ○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。**海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成29年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。**

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国際教養学部の創設

平成28年度に設置した**国際教養学部**では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。

### ○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンスの上位職種として位置づけ、テーラーメイド教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

### ○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。**平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。**

### ○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体として**デザイン・イノベーション・センターを組織した。**

## ■ 自由記述欄

### ○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との多様な連携を強化し、**サテライトキャンパスを平成29年度に設置**する。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UC San Diegoにサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。

### ○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

千葉大学を新生する  
4つの独自目標

7  
700 科目に及ぶ英語による授業を「新国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

5  
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3  
3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様なプログラムを展開します。

1  
「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

753+1 計画  
(シチゴサン+イチ)

〈753+1計画のパンフレット〉



〈マヒドン大学でのプログラムPR〉



## 5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、**これまでに17名の教員を採用した**。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈イングリッシュ・ハウス〉

##### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する**。平成29年度には新たに10名を任命・配置し、12名で対応している。

##### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

**ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成29年度は7プログラムを本格実施した**。これにより新たに約200名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈食の安全:ショート・プログラム〉

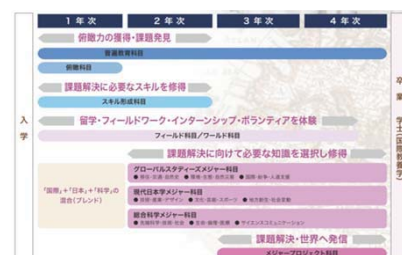
##### ○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、**留学派遣および留学受入を推進している**。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、**海外サマープログラムの推進、独自サマープログラムの設置を行った**。このギャップタームを利用するなどにより、**留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、2年間でのべ120名以上が留学している**。一方、**第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している**。

#### ガバナンス改革関連

##### ○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学(副専攻)』を礎に、「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型の新たな学部を設置し**、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のカリキュラム構造〉

##### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、330名以上の実績を確保した。また、平成27年度より**クロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する**。

##### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成29年度は12名配置し、最終的には**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる**。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**16名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた**。

##### ○ 外国語教育の授業改革

平成29年度に**外国語教育の改革を目指したワーキンググループを設置した**。2020年度より**カリキュラム改革を実施する**。

#### 教育改革関連

##### ○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した**。また、**スチューデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した**。

##### ○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーのほか、英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入する**。

##### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)を修得するプログラムを計画した**。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した**。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

### ○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、2%増加した。

### ○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成29年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで750名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

### ○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成29年度には、ショート・プログラムを実施し、約200名の留学生を獲得できた。

### ○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成30年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国際教養学部の創設

平成28年度に設置した国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。

### ○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメイド教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

### ○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

### ○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体としてイノベーション教育センターを組織した。

## ■ 自由記述欄

### ○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との多様な連携を強化し、バンコク・キャンパスを平成29年9月に設置した。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UC San Diegoにサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。

### ○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

## 4 ORIGINAL GOALS

千葉大学を新生する4つの独自目標

## 753+1 PLAN

シチゴサン タスイチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様な多彩なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

〈753+1計画のパンフレット〉



〈バンコク・キャンパス開所式〉

## 6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、**これまでに17名の教員を採用した**。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈イングリッシュ・ハウス〉

##### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する**。平成30年度には新たに13名を任命・配置し、24名で対応している。

##### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

**ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成30年度は13プログラムを本格実施した**。これにより新たに約300名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈食の安全:ショート・プログラム〉

##### ○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、**留学派遣および留学受入を推進している**。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、**海外サマープログラムの推進、独自サマープログラムの設置を行った**。このギャップタームを利用するなどにより、留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、3年間でのべ270名以上が留学している。一方、**第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している**。

#### ガバナンス改革関連

##### ○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型教育**を、2020年以降に全学展開する。そのために、2020年入学の学生より全員留学(ENGINEプログラム)とし、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。



〈国際教養学部のカリキュラム構造〉

##### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き300名以上の実績を確保した。また、平成27年度より**クロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する**。

##### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成30年度は24名配置し、最終的には**60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる**。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**17名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた**。

##### ○ 外国語教育の授業改革

平成29年度に**外国語教育の改革を目指したワーキンググループ**を設置し、英語力の到達度水準に係る全学的なルーブリックを策定した。2020年度より**カリキュラム改革**を実施する。

#### 教育改革関連

##### ○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した**。また、スチューデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、**イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した**。

##### ○ マイナー、サーティフィケート・プログラムの充実

英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修する**グローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入、**マイナー、サーティフィケートプログラムを戦略的に充実させた**。**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**の設置は、継続検討を行っている。

##### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才で**ダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

### ○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、約1%増加した。

### ○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成30年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

### ○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成30年度には、ショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。

### ○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成31年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国際教養学部の進化

平成28年度に設置した国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。このような教育理念を拡大させ、大学院レベルでのプログラムの設置を行っていく。

### ○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメイド教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

### ○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

### ○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」「COILを使用した日米ユニーク・プログラム」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体としてイノベーション教育センターを組織した。

## ■ 自由記述欄

### ○ グローバル・ネットワークの構築

グローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置、バンコク・キャンパス(平成29年9月)、ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学(旧フンボルト大学医学部)平成28年)、サンディエゴ・キャンパス((UC San Diego)平成28年)の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に運営する基幹を組織し、全員留学に向けてさらに推進していく。

### ○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

## 4 ORIGINAL GOALS

千葉大学を新生する4つの独自目標

## 753+1 PLAN

シチゴサン+イチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様な多彩なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

〈753+1計画のパンフレット〉



〈バンコク・キャンパス開所式〉

## 7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、**これまでに17名の教員を採用した**。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈在日本メキシコ大使館でのプレゼンテーション〉

##### ○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成31年度には新たに14名を任命・配置し、37名で対応している。また、国際化人材専門の採用も開始し、専門職員の拡張を図る。

##### ○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成31年度は**14プログラム実施した**。これにより新たに**約300名の留学生を受け入れた**。海外の協定校への広報(資料・広報ビデオ)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。また、ENGINEプランにおける**全員留学のための新たなプログラムを12設置した**。



〈タイ：地方創生ショート・プログラム〉

##### ○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より**6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)**を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、**海外サマープログラムの推進、独自サマープログラムの設置を行った**。このギャップタームを利用するなどにより、留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、4年間で**約400名が留学している**。一方、**第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している**。

#### ガバナンス改革関連



##### ○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型教育**を、2020年以降に全学展開する。そのために、2020年入学の学生より**全員留学(ENGINEプラン)**とし、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。



〈ENGINEプラン全員留学〉

##### ○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き**300名以上の実績を確保した**。また、平成27年度より**クロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する**。

##### ○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成31年度は**37名配置し、最終的には60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる**。また、職員の研修制度として、若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修を行い、平成31年度は**8名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた**。これまでにのべ約70名が研修に参加している。

##### ○ 外国語教育の授業改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させる。専門課程でも、プレゼンテーション中心の英語による授業を開講し、継続的に英語を学習する制度改革を行った。2020年度より**完全レベル別編成のカリキュラム改革を実施する**。

#### 教育改革関連

##### ○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進=スマート・ラーニングへの進化

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した**。さらに、留学中でも必修科目などを継続的に学習できる、どこでも学習できる=スマート・ラーニングを推進し、100科目以上の設置を目指す。

##### ○ マイナー、サーティフィケート・プログラムの充実

英語により開講されている**国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入、副専攻学位を授与、サーティフィケートを授与している。さらに、大学院でも大学院国際実践プログラムとして、7つの副専攻学位のプログラムおよび、サーティフィケート・プログラムを設置した。

##### ○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)を修得するプログラムを計画した**。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した**。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

**753+1 PLAN**  
シチゴサンタスイチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様で多彩なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

〈753+1計画のパンフレット〉

■ **大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画**

○ 「7」-700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、約1.5%増加した。

○ 「5」-50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

平成31年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。令和2年度からは、ENGINEプランで全員留学を実施する。本年度は、そのための準備を行った。令和2年度には、修士課程の2,000人が、令和3年度には、学部を含め3,000名が留学し、4年後には、年間4,000名以上の学生が留学することになる。

○ 「3」-3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の受け入れを実施する。平成31年度には、14のショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。また、専門課程におけるセメスタープログラムも開始し、80名近くを受け入れることができている。

○ 「1」-10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では令和2年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。

■ **大学の特性を踏まえた特徴ある取組**

○ **国際教養学部の進化→多様な大学院進学 日本初研究科等連携学位プログラム「総合国際学位プログラム」設置**

平成28年度に設置した国際教養学部では、最初の卒業生を出した。卒業生の20%近くが大学院に進学し、多様な学を実現している。広範な文理混合教育の成果は、大学院進学に現れており、新たに研究科等連携学位プログラムとして設置した「総合国際学位プログラム」以外にも、文学系から工学系、園芸系に至るまで、文理混合の学を継続している。

○ **特別専門職SULAの創設→シニアSULAポストの設置**

SULAは、本年度で37名となった。このSULAを戦略的に組織化するため、シニアSULA(SULAの管理職)のポストを設置、全学のSULAを管理し、様々な学習支援に関する情報の一元化を実現した。そのため、あまりSULAを必要としない学部(教育学部(免許取得学部)・医学部・薬学部・看護学部)には、全学のSULAが対応するようになっている。

○ **時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」**

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ **ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム**

大学院ワールドスクールは、大学院国際実践プログラムとして設置した。現在は、「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」「COILを使用した日米ユニーク・プログラム」などの研究科を横断する全学を対象とした7つのプログラムをそれぞれ履修することで、副専攻学位(マイナー)あるいはサーティフィケートを授与している。このプログラムは、イノベーション教育センターで設置し、今後も新たなプログラムを設置していく。

■ **自由記述欄**

○ **グローバル・ネットワークの構築**

平成30年度最後に、グローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置し、**バンコク・キャンパス(平成29年9月)**、**ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学(旧フンボルト大学医学部)平成28年)**、**サンディエゴ・キャンパス((UC San Diego)平成28年)**の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に管理し、全員留学を推進していく。



〈ベルリンキャンパス主催のWHO見学会〉

○ **国内他大学とのネットワークの構築**

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。